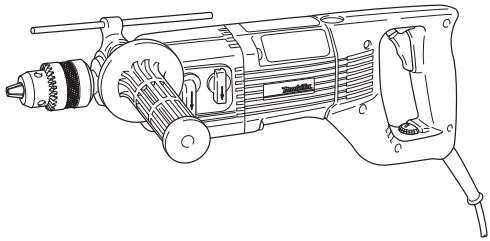
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

makita

取扱説明書

ダイヤコア震動ドリル

回 モデル 8406C
（無段変速・2スピード）



二重絶縁

このマークを表示した製品は二重絶縁構造ですのでアース（接地）する必要はありません。
マキタ製品は電気用品安全法に基づく技術上の基準に適合、または準じて（電気用品安全法適用外の製品）製造されております。

このたびは**ダイヤコア震動ドリル**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

目次

・主要機能 - - - 3
・安全上のご注意 - - - 4
・震動ドリル安全上のご注意 - - - 10
・各部の名称および標準付属品 - - - 12
・別販売品のご紹介 - - - 13
・使い方 - - - 15
　・グリップの取り付け方 - - - 15
　・カバーの取り付け方 - - - 15
　・ダイヤモンドコアビットまたはキリの取り付け・取りはずし方 - - - 16
　・ストッパポール - - - 16
　・スイッチの操作 - - - 17
　・トルクリミッタについて - - - 17
　・スピード切り替えレバーの操作 - - - 17
　・スピード調整ダイヤルの操作 - - - 18
　・ドリル・震動ドリルモード切り替えレバーの操作 - - - 20
　・ダイヤモンドコアビットについて - - - 20
　・湿式用ダイヤモンドコアビットによる穴あけ方法 - - - 21
　・注水方法 - - - 21
　・位置決め - - - 21
　・穴あけ作業 - - - 22
　・切削片の取り出し方 - - - 23
　・スポンジの交換 - - - 24
　・乾式用ダイヤモンドコアビットによる穴あけ方法 - - - 24
　・位置決め - - - 24
　・穴あけ作業 - - - 25
　・切削片の取り出し方 - - - 25
　・穴あけ方法 - - - 26
・保守・点検について - - - 27
　・カーボンブラシの交換 - - - 27
　・本製品のお手入れ - - - 28
　・ご修理の際は - - - 28

主要機能

主要機能＼モデル			8406C
電動機			直巻整流子電動機
電圧			単相交流 100 V
電流			11 A
周波数			50-60 Hz
消費電力			1,050 W
回転数			高速：1,800 ～ 4,000 min^{-1}（回転 / 分） 低速：900 ～ 2,000 min^{-1}（回転 / 分）
打撃数			高速：28,800 ～ 64,000 min^{-1}（回 / 分） 低速：14,400 ～ 32,000 min^{-1}（回 / 分）
穴あけ能力	コンクリート	ダイヤモンドコアビット	高速：不可 低速：φ 120 mm
		超硬ドリル	高速・低速：φ 20 mm
	鉄工	高速φ 6.5 mm　低速：φ 13 mm	
	木工	高速φ 18 mm　低速：φ 30 mm	
ドリルチャック能力			φ 2 ～ 13 mm
長さ			455 mm
質量			4.5 kg
振動３軸合成値	振動ドリルモード		11.0 m/s^2
	ドリルモード（ダイヤコアビット使用）		6.5 m/s^2
	ドリルモード		3.5 m/s^2

- 振動３軸合成値は、EN60745-2-1 規格に基づき測定。
- 振動３軸合成値についての詳細は JEMA［(社）日本電機工業会］ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。
- 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

安全上のご注意

JPA001-37

- ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 「電動工具」は、電源式（コード付き）電動工具を示します。

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
なお ⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

⚠警告

作業環境

1. 作業場は、整理整頓してください。また、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある所で使用しないでください。
・ 電動工具から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
・ 注意力が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
・ 作業者以外、電動工具や電源コードに触れさせないでください。
4. 十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。
5. アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
・ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発症させる物質です。

電気に関する安全事項

1. 電源コンセントは電動工具の電源プラグに合ったものを使用してください。また、電源プラグの改造をしないでください。アース（接地）付きプラグは確実にアース（接地）をしてください。
・ 改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. 金属製のパイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアース（接地）されているものに身体を接触させないようにしてください。
・ 感電する恐れがあります。
3. 電動工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用したりしないでください。
・ 電動工具内部に水が入り、感電する恐れがあります。
4. 電源コードを乱暴に扱わないでください。
・ 電源コードを持って電動工具を運んだり、引っ張ったりしないでください。また、電源プラグを抜くために電源コードを利用しないでください。
・ 電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけないでください。電源コードが損傷したり、身体に絡まって感電する恐れがあります。
5. 屋外の使用に適した延長コードを使用してください。
・ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
6. アース（接地）付きプラグやアース線がある場合、アース線をガス管に接続しないでください。
・ 発火や爆発の原因になります。
7. 電動工具を湿った場所で使用することが避けられない場合、漏電しゃ断器によって保護された電源を使用してください。
8. 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
・ 表示を超える電圧で使用すると、モータの回転が異常に高速となり、けがの原因になります。

⚠警告

作業者に関する安全事項

1. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいる方や妊娠している方は、電動工具を使用しないでください。
- 屋外での作業の場合は、夜間の使用や悪天候などで視界の悪いときは電動工具を使用しないでください。
- 一瞬の不注意が深刻な傷害を招きます。

2. 安全保護具を使用してください。
- 作業時は、常に保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では防じんマスクを併用してください。必要に応じて、すべり防止安全靴･ヘルメット、耳栓、イヤマフなどを着用してください。

3. 不意な始動は避けてください。
- 電源プラグを電源コンセントに挿し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- 電源コードをつないだ状態で、スイッチに指をかけて運ばないでください。

4. 電動工具の電源を入れる前に、調整キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れたときに、取り付けたキーやレンチなどが回転して負傷する恐れがあります。
- 本製品に収納場所がある場合は､決められた位置にしっかり固定してください。

5. 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

6. きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
- 髪、衣服、手袋は回転部分に近づけないでください。
- 屋外での作業の場合には、すべり止めの付いた履物の使用をおすすめします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

7. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。
- 電動工具に集じん機などが接続できる場合は、これらの装置を確実に接続することで粉じんの人体への影響を軽減できます。

8. 電動工具を使い慣れていても、安全性に注意して作業してください。
- 不注意な行動は、重大な障害を引き起こすおそれがあります。

電動工具の使用および手入れ

1. 電動工具は能力に合った作業に使用してください。
- 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。

2. スイッチに異常がないか点検してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険です。使用せず修理をお申し付けください。

⚠警告

3. 電動工具の誤始動を防ぐために、次の作業前はスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 本製品の調整
- 刃物、砥石、ビットなどの付属品の交換
- 保管、または修理
- 電動工具から離れるとき
- その他危険が予想される作業

4. 使用しない電動工具は、子供の手の届かない乾燥した鍵のかかる場所に保管してください。
- 電源コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。

5. 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響をおよぼすすべての部位に異常がないか確認してください。
- 保守点検が不十分であることが事故の原因になります。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスなどが付かないようにしてください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- 電源コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
- 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。

6. 先端工具は、鋭利できれいな状態を保ってください。
- 先端工具を適切に手入れすることで、円滑な作業と容易な操作ができます。

7. 取扱説明書で指定した先端工具、付属品、アタッチメントなどを使用してください。
- 取扱説明書で指定のサイズ、形状、付属品などは、本製品の性能や安全を引出すよう、最適に設計されています。

8. 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具類は、作業条件や実施する作業に合わせてご使用ください。
- 指定された用途以外に使用すると、事故の原因になります。

9. ハンドルおよび保持面にオイルまたはグリスを付着させず、きれいな状態で乾燥させておいてください。
- ハンドルまたは保持面が滑ると、電動工具の安全な取り扱いまたは制御を妨げるおそれがあります。

10. 極端な高温や低温の環境下では十分な性能を得られません。

11. 「取扱説明書」と「安全上のご注意」をお読みになって、電動工具とその操作を理解した方以外は使用させないでください。
- 理解せずに使用することは危険です。

12. 子供や本製品の操作を理解していない方には使用させないでください。
- けがの原因になります。

13. 必要に応じ、定格感度電流が 30 mA 以下の漏電しゃ断器を使用してください。

⚠警告

整備

1. 電動工具は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。

- 本製品を分解、修理、改造はしないでください。発火したり、異常動作して、けがをする恐れがあります。
- 本製品が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
- 本製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。
- アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用した本製品の保守・点検・修理は受付できません。

その他の安全事項

1. 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。異常がある場合は、使用する前に修理を行ってください。
- 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書に従ってください。取扱説明書に記載されていない場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
- 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。そのまま、使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。

  ＜異常・故障例＞
  - 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
  - 電源コードに深いキズや変形がある。
  - 電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
  - 焦げくさい臭いがする。
  - ビリビリと電気を感じる。
- スイッチを入れても動かないなど不具合を感じた場合は、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。

2. 正しい付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

3. 材料を加工する工具では、材料をしっかりと固定してください。

- 材料を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。（材料を動かして加工する製品を除く。）

4. 電源プラグにぬれた手で触れないでください。

- 感電の恐れがあります。

⚠警告

5. 使用できる延長コードの太さ（導体公称断面積）と最大長さの目安

- 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、本製品を最高の能率で支障なくご使用いただくために、十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。
- 延長コードは本製品のコードと同じような被ふくを施したコードを使用してください。

コードの太さ（導体公称断面積）	銘板記載の定格電流値で使用できる長さの目安		
	～5 A	5～10 A	10～15 A
2.0 mm^2	50 m	30 m	20 m

この取扱説明書は、大切に保管してください。

- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に必ず保管してください。
- ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

●騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制がありますので、ご近所などの周囲に迷惑をかけないようにご使用ください。

震動ドリル安全上のご注意

JPB002-8

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、震動ドリルとして、さらに次の注意事項を守ってください。

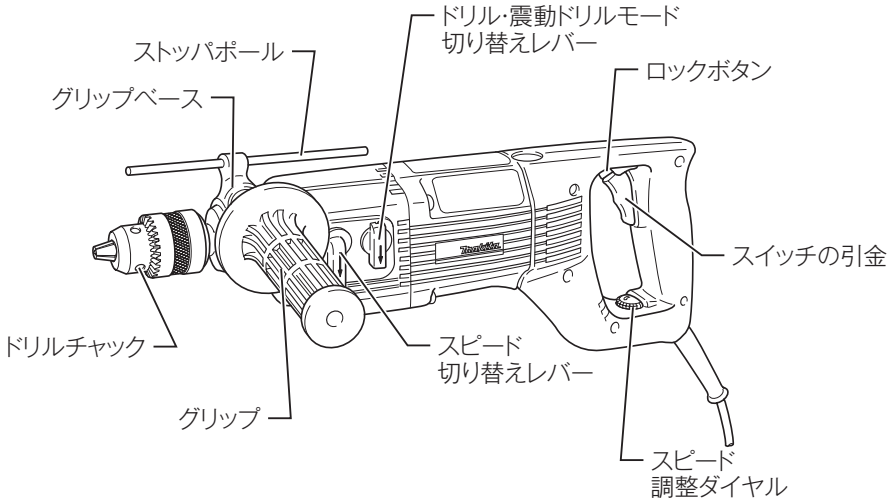
⚠ 警告

1. 耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音用保護具を着用してください。
   - 騒音にさらされ難聴の原因になります。
2. 付属の補助ハンドルを使い、本製品を両手でしっかり握ってください。
   - 振り回され、けがの原因になります。
3. 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
   - 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。
4. 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。また、絶縁されたハンドルだけを握ってください。
   - 埋設物があると工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
5. 使用中は、ビットなどの工具類や回転部、切りくずなどの排出物に手や顔などを近づけないでください。
   - けがの原因になります。
6. 使用中、本製品の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。
   - そのまま使用していると、けがの原因になります。
7. 誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類や本製品などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
   - 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
8. 先端工具がチャックに食い込んで取れなくなった場合は、手で取らずにペンチなどを使って取りはずしてください。
   - けがの原因になります。

⚠注意

1. 工具類（ビットなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
・ 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
2. 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
・ 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
3. 作業直後のビットや切りくずは大変熱くなっていますので、触れないでください。
・ やけどの原因になります。
4. 高所作業のときは､下に人がいないことをよく確かめてください｡また､コードを引っかけたりしないでください。
・ 材料や本製品などを落としたときなど、事故の原因になります。
5. 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
・ けがの原因になります。
6. 細径ドリルは折れやすいので注意してください。
・ 飛散して、けがの恐れがあります。

各部の名称および標準付属品



標準付属品

- チャックキー S13
  （本製品取り付け）
- キーホルダ 12
  （本製品取り付け）
- カバー（防水用）
- プラスチックケース
- ストッパポール

別販売品のご紹介

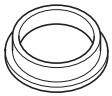
・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店、または当社営業所へお問い合わせください。

ダイヤモンドコアビットセット品

湿式用

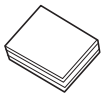
・ ダイヤモンドコアビット

・ ガイドリング



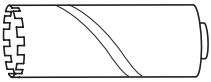
・ スポンジ

・ 粘着シート（20 枚入）

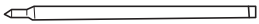


乾式用

・ ダイヤモンドコアビット



・ センタースティック



・ コアビットシャンク

湿式用

外径（mm）	セット品（穴あけ深さ 180 mm）ダイヤモンドコアビット・スポンジ・ガイドリング・粘着シート 20 枚	セット品（穴あけ深さ 240 mm）ダイヤモンドコアビット・スポンジ・ガイドリング・粘着シート 20 枚	ダイヤモンドコアビット（穴あけ深さ 180 mm）＋スポンジ	ガイドリング	スポンジ	粘着シート（10 枚）
	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
32	A-27078	A-12619	A-27165	A-27349	A-27252	A-27436
38	A-27084	A-12625	A-27171	A-27355	A-27268	A-27442
45	A-27090	—	A-27187	A-27361	A-27274	A-27458
54	A-27109	A-12631	A-27193	A-27377	A-27280	A-27464
65	A-27115	A-12647	A-27202	A-27383	A-27296	A-27470
70	A-27121	A-12653	A-27218	A-27399	A-27305	A-27486
80	A-27137	A-12669	A-27224	A-27408	A-27311	A-27492
105	A-27143	A-12675	A-27230	A-27414	A-27327	A-27501
120	A-27159	A-12681	A-27246	A-27420	A-27333	A-27517

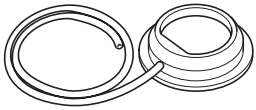
別販売品のご紹介

乾式用

外径（mm）	セット品 （穴あけ深さ 165 mm）	単品／ダイヤモンドコアビット
	部品番号	部品番号
32	A-12859	A-13166
38	A-12865	A-13172
54	A-12871	A-13188
65	A-12887	A-13194
70	A-12893	A-13203
80	A-12902	A-13219
90	A-12918	A-13225
105	A-12924	A-13231
120	A-12930	A-13247

水処理パッドセット品

部品番号：191772-9



・ 超硬ドリル

・ セフティゴーグル
（保護メガネ）

・ 漏電しゃ断機
部品番号：A-06242

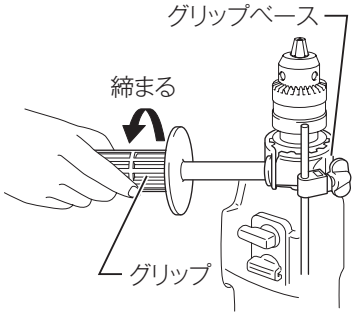
グリップの取り付け方

⚠ 警告

グリップは必ず取り付け、本製品を両手で確実に保持して作業してください。

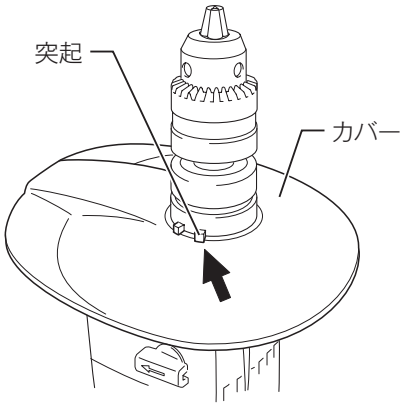
・ 確実に保持していないと、けがの原因になります。

・ グリップは、30 度とびの位置で取り付けできるようになっています。位置を変える時は、グリップを左に回してゆるめ、グリップベースを少し抜き出し、グリップベースを回してください。
・ 取り付け位置を決めたら、ハウジングの突起とグリップベースの溝を合わせて挿入しグリップを右に回してしっかり固定してください。



カバーの取り付け方

・ 湿式用ダイヤモンドコアビットをご使用の際は、カバーを取り付けてください。
・ グリップベースをはずしてください。カバーをハウジングの突起とカバーの溝を合わせて挿入してください。グリップベース、グリップを取り付けてしっかり固定してください。



ダイヤモンドコアビットまたはキリの取り付け・取りはずし方

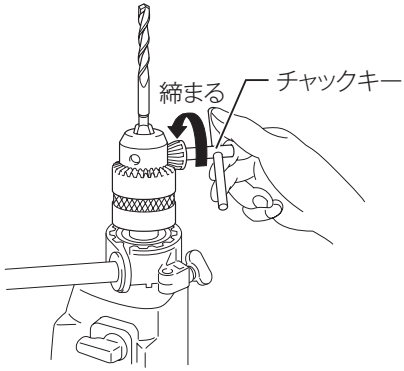
⚠ 警告

ダイヤモンドコアビットまたはキリの取り付け、取りはずしの際は必ずスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

・ 電源プラグを電源コンセントにつないだまま行うと、事故の原因になります。

取り付け方

・ ドリルチャックの３か所の穴のうち１か所の穴にチャックキーを差し込み、左へ回しますとドリルチャックの先端のツメが開きます。
ダイヤモンドコアビットまたはキリを差し込み、図のように右方向に回して締め付けてください。この際、１か所だけをチャックキーで締め付けず、３か所を均等に締め付けてください。



取りはずし方

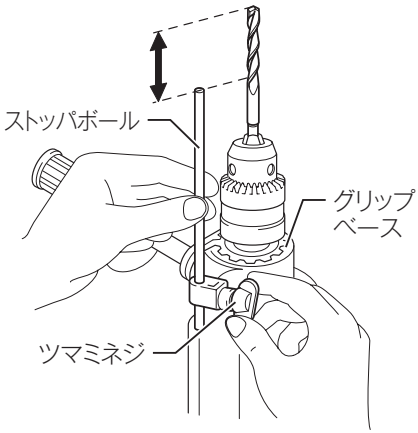
・ 取り付け方の逆の要領で行ってください。

注

・ **チャックキーは所定の位置に正しく取り付けてください。**

ストッパポール

・ 同じ深さの穴をたくさんあけたいときにお使いになると便利です。ストッパポールをグリップのホルダ部にある穴に差し込んでください。お望みの長さに調整した後、ツマミネジを締めて固定してください。



使い方

スイッチの操作

⚠ 警告

電源コンセントに電源プラグを差し込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。

・ スイッチを入れたまま電源プラグを差し込むと急に動きだし、事故の原因になります。

・ スイッチは引金を引くと入り、放すと切れます。スイッチの引金を引いてからロックボタンを押し込むと、引金を放しても固定され連続運転します。停止させるには、もう一度引金を引いてロックボタンが戻ってから引金を放してください。

トルクリミッタについて

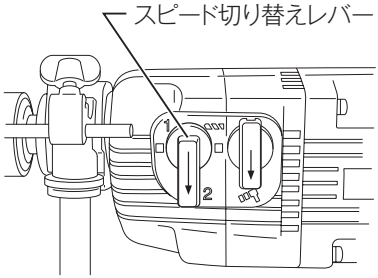
・ トルクリミッタ付きですので、ダイヤモンドコアビットまたはキリに所定のトルクがかかると、トルクリミッタが作動し、ダイヤモンドコアビットまたはキリにモータの回転が伝わらない構造になっています。

注

・ **トルクリミッタが作動したときは作動時間を２秒以内にとどめてください。**
・ **トルクリミッタは頻繁に作動させないでください。**

スピード切り替えレバーの操作

・ 回転数および打撃数はスピード切り替えレバーを回すことによって２段階に切り替えができます。
・ スピード切り替えレバーを「1」に回すと低速になり、「2」に回すと高速になります。

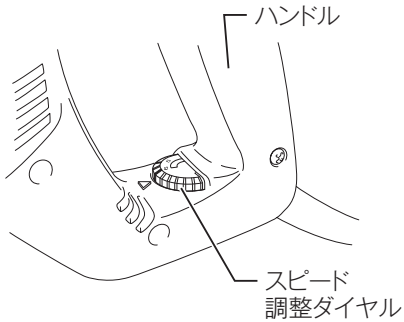


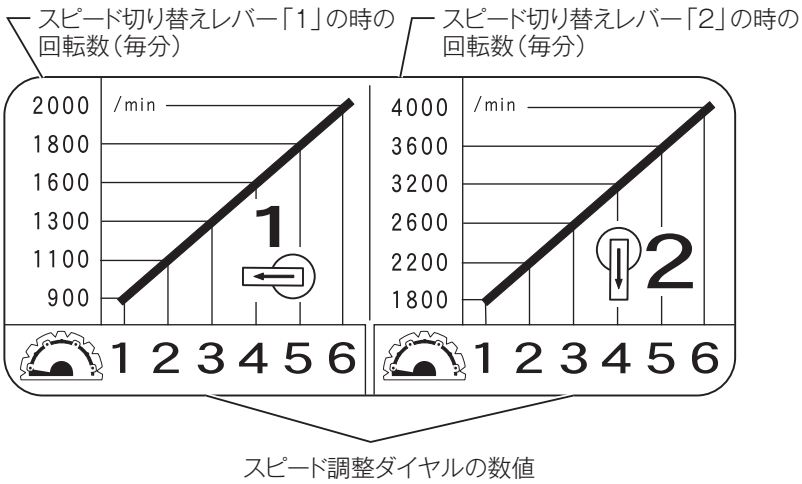
注

・ **切り替えレバーは確実にシフトしてください。中間の位置で使用されますと故障の原因となります。**

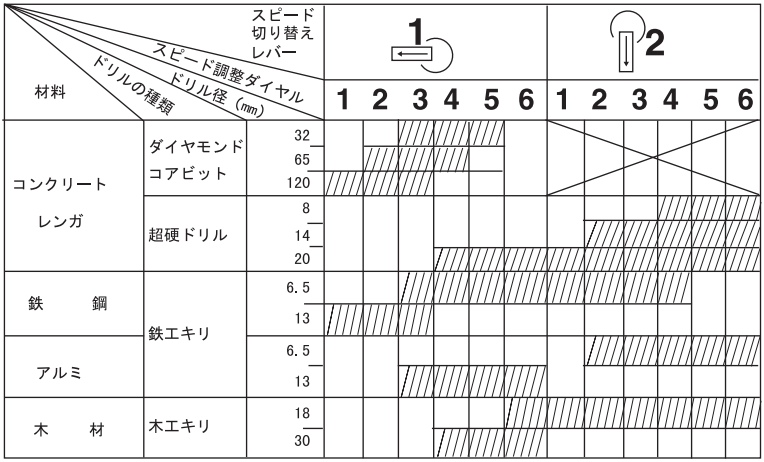
スピード調整ダイヤルの操作

・ スピード調整ダイヤルを回すことにより、下表の範囲で回転数が変えられます。打撃数も回転数の変化にともなってかわります。
・ ダイヤル表示は１～６まであり、数字が大きくなるに従って回転は速く、打撃は多くなります。





・ 下表を参考にして、材料、ドリルの種類、キリの径に合った回転数を選定してください。



※

注

※スピード切り替えレバー「2」でダイヤモンドコアビットおよびホールソーは使用できません。使用しますと、故障の原因となります。

・ コンクリート、レンガは次のことも回転数選定の参考にしてください。

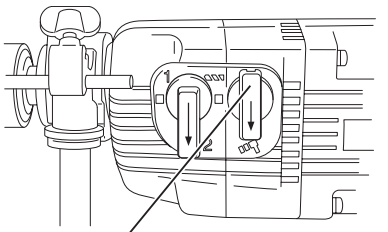
材料	硬い⇔柔らかい
回転数	低い⇔高い

注

・ スピード調整ダイヤルは 1 より下には回りません。また 6 より上にも回りません。無理に回しますと故障の原因となりますので、スピード調整ダイヤルは必ず、1 → 2 → 3…6、6 → 5 → 4…1 の順に回してください。
・ ダイヤモンドコアビットおよびホールソーによる穴あけは、スピード切り替えレバー「1」を使用してください。

ドリル・震動ドリルモード切り替えレバーの操作

・「回転のみ」（ドリルモード）で使用されるときは、マーク側に切り替えレバーを回してください。
・「回転＋打撃」（震動ドリルモード）で使用されるときは、マーク側に切り替えレバーを回してください。



注

・ 切り替えレバーは確実にシフトしてください。
中間の位置で使用されますと故障の原因となります。

ダイヤモンドコアビットについて

・ ダイヤモンドコアビットによる穴あけは、ドリル・震動ドリルモード切り替えレバーを の位置に合わせて「回転」のみで使用してください。
・ ダイヤモンドコアビットは材料の種類や状態によって性能が変化します。
・ 石材など硬い材料に穴あけしたときは、切れ味が低下することがあります。このような場合はコンクリートブロックや使用済みの WA 砥石など、組織の粗い材料に穴あけし、刃先のドレッシング（目出し）をしてください。
・ コンクリートブロックや打ち込み後の日数が浅いコンクリートなどに穴あけしたときは、ダイヤモンドコアビットの寿命が短くなります。
・ 湿式用ダイヤモンドコアビット使用後はよく水洗いし、水分をふきとり、スポンジ、ガイドリングとともに乾燥した場所に保管してください。

注

・「回転＋打撃」によって穴あけすると刃先の欠け、異常摩耗でダイヤモンドコアビットの寿命が短くなります。

湿式用ダイヤモンドコアビットによる穴あけ方法

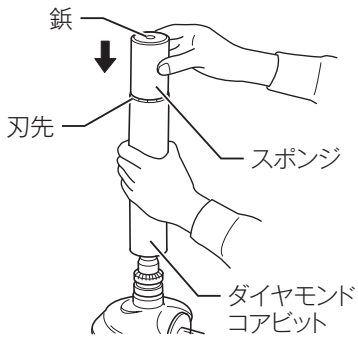
⚠警告

必ず労働安全規則や電気設備の技術基準などに規定された、感電防止用漏電しゃ断装置の設置された電源で使用してください。
無い場合は、マキタ純正漏電しゃ断器を使用してください。本製品は作業者を感電事故より守るため、二重絶縁構造を施してありますが、より安全を期すために、必ずゴム長靴、ゴム手袋を着用してください。

・ 漏電した場合、感電事故の原因になります。

注水方法

・ ダイヤモンドコアビットの刃先を上に向け、ダイヤモンドコアビット内に半分程注水します。水分を絞ったスポンジを鋲のある方を上にして奥までゆっくり挿入してください。

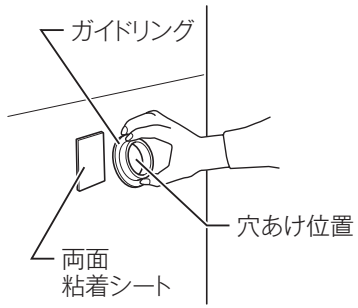


注

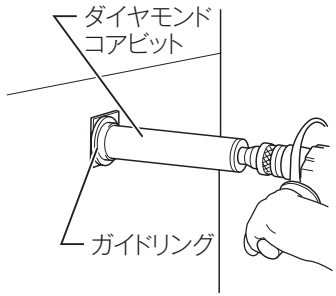
・ **本製品に水がかからないように十分注意してください。**

位置決め

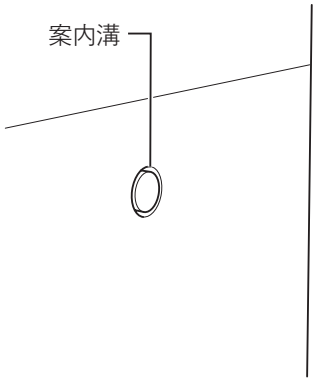
・ 穴あけ箇所およびガイドリングの水分、汚れなどをふきとってください。
・ 穴あけ箇所に両面粘着シートを張り、その上にガイドリングを取り付けてください。



・ ダイヤモンドコアビットをガイドリングの中にあてがい本製品を運転し、案内溝を作ってください。

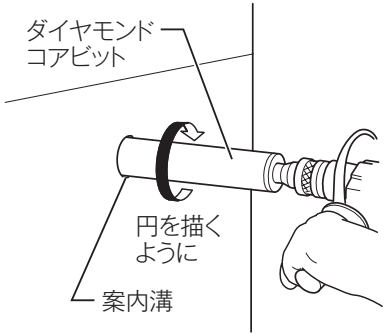


・ 案内溝ができましたら本製品を一旦止めてガイドリングおよび外側の粘着シートを取りはずしてください。



穴あけ作業

・ 案内溝にダイヤモンドコアビットをあてがいスイッチを入れるとともに本製品を心もち（2 ～ 3 度）傾けゆっくり円を描くように動かしながら穴あけしてください。
・ 穴の深さが深くなるにしたがって本製品の傾き具合を少なくし、貫通前には傾きをなくします。
・ 穴が貫通しましたら、スイッチを切り本製品が停止してから、ダイヤモンドコアビットを抜いてください。



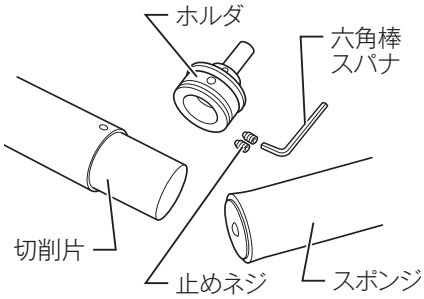
注

・ 穴あけ作業中は、穴あけ溝から絶えず水が流れ出ているのを確認してください。
・ 水の出方が少なくなったときは、本製品を少し引き戻し、再び押し込むと水の出方が良くなります。この操作をしても水の出方が少ない場合はただちに補給してください。
・ 穴あけ途中で水を補給したときは、ダイヤモンドコアビットが最深部にとどいてからスイッチを入れ穴あけ作業をしてください。

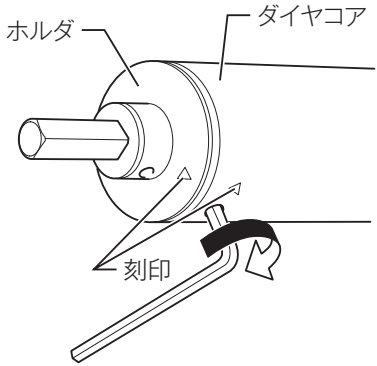
切削片の取り出し方

・ ダイヤモンドコアビット内に残った切削片は刃先側より取り出してください。

・ 切削片の取り出しが困難な場合は、付属の六角棒レンチで止めネジをはずし、ホルダを抜き取り、スポンジといっしょに取り出してください。



・ ホルダをダイヤコアに取り付けるときは、ホルダとダイヤコアの刻印を合わせて止めネジを締め付けてください。

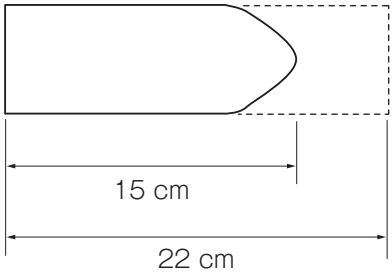


注

・ 切削片を取り出す際、ネジ回しなどでこじたり、刃先をたたいたりしないでください。
・ ダイヤコアを変形させたり、ホルダの O リングを傷つけないようにしてください。

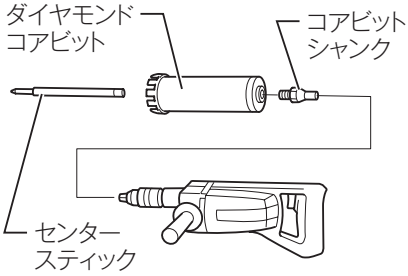
スポンジの交換

・ スポンジは 15 cm 位になりましたら交換してください。



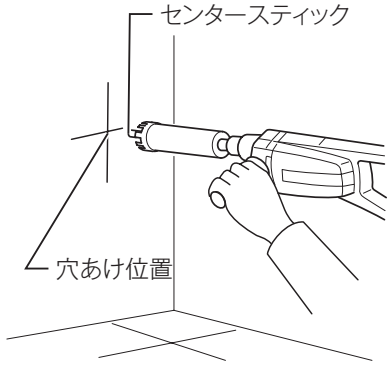
乾式用ダイヤモンドコアビットによる穴あけ方法

・ コアビットシャンク、ダイヤモンドコアビットおよびセンタースティックを組み付けてください。



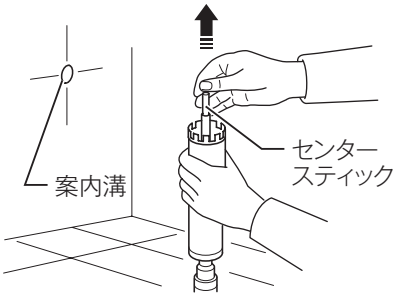
位置決め

・ センタースティックを穴あけ位置に合わせ、本製品のスイッチを入れて 3 ～ 5 mm 深さの案内溝をあけてください。

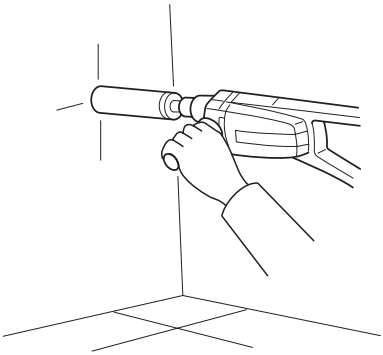


穴あけ作業

・ センタースティックを引き抜き、ダイヤモンドコアビットを案内溝に当てがい本製品を真直に押して穴あけしてください。この場合、本製品を強く押し過ぎないように注意してください。

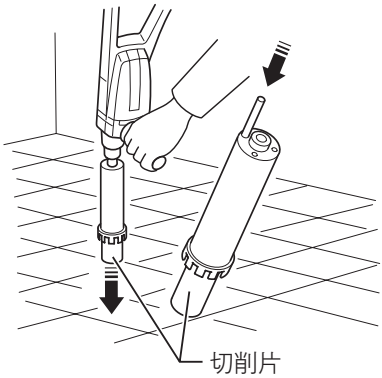


・ 穴あけ途中で鉄筋、異物にあたったときや穴がもう少しで貫通する状態になりましたら押す力を弱めてください。



切削片の取り出し方

・ ダイヤモンドコアビット内に残った切削片は、ダイヤモンドコアビットを下向きにして取り出してください。
取り出しが困難な場合は、コアビットシャンク側の穴から適当な棒を入れ押し出してください。



注

・ 湿った材料や下向きに穴あけした場合、切りくずの排出が悪くなることがあります。このような場合は集じん機を併用してください。

使い方

穴あけ方法

⚠ 警告

穴の抜けぎわは、キリが折れたり、本製品に大きな力がかかり振り回される恐れがあります。穴の抜けぎわを確認しながら慎重に作業してください。

・ けがの原因になります。

震動ドリルとして使用する場合

・ コンクリートなどの石材に穴あけされる場合は、チェンジレバーを「回転＋打撃」にしてください。
なお、ドリルは超硬ドリルを使用してください。

・ 深い穴で粉じんがつまる時は、超硬ドリルを回転しながら２～３回、穴より出し入れさせて、粉じんを排出してください。

ドリルとして使用する場合

・ 金属や木材に穴あけされる場合は、チェンジレバーを「回転」のみにしてください。

・ 金属に穴をあける場合は、穴をあけたい位置にセンタポンチでクボミをつくり、そのクボミにキリの先をあてがえば、キリの先がすべらず正確な位置に穴あけができます。穴あけ時には、キリに油（マシン油など）をつけて作業してください。

注

・ **本製品を無理に押しつけて作業しないでください。作業能率が低下するばかりでなく、本製品の寿命も短くなります。**

保守・点検について

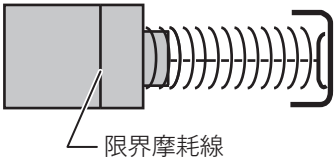
⚠ 警告

点検・整備の際には必ずスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

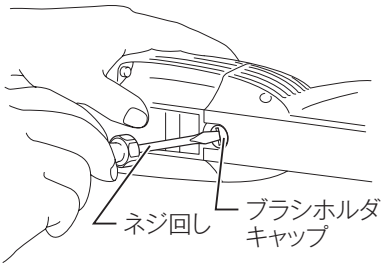
・ 電源プラグを電源コンセントにつないだまま行うと、事故の原因になります。

カーボンブラシの交換

・ カーボンブラシは時々、取りはずして点検してください。カーボンブラシが限界摩耗線まで摩耗したら新品と取り替えてください。このとき、カーボンブラシがブラシホルダ内で前後にスムーズに動くか確認してください。
新品と交換する際は、必ず当社指定のカーボンブラシをご使用ください。



・ ネジ回しでブラシホルダキャップを取りはずしてください。
・ 中から摩耗したカーボンブラシを取り出し、新品と取り替えて、ブラシホルダキャップを組み付けてください。
カーボンブラシは２コで１組になっております。取り替える場合は、必ず同時に行ってください。



保守・点検について

本製品のお手入れ

・ 乾いた布か薄めた中性洗剤を付けた布できれいに拭いてください。

注

・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

ご修理の際は

・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

メモ

メモ

メモ

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）

881625H7
IWT